

2023年度 法科大学院

第4期入学試験問題

1 時限

憲法

(論文式)

試験時間 50 分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[憲法]

つぎの文章を読んで、設問に答えなさい。

Yは、14歳の時に実父Aから性的虐待を受け、これが継続されたので、約1年後に実母Bに事情を話した。驚いたBはAを強く諫めたが、AがYへの性的虐待をやめないため、Yを連れて何度もAから逃げ出した。しかし、BらはそのたびにAによって連れ戻され、AのYに対する性的虐待も継続した。その後AはYを伴ってBのもとを去り、Yと夫婦同然の生活を続けた。20代後半になって、勤め先で同僚と恋愛したYは、これを機会に今度こそAとの醜縁を切ってこの同僚と結婚し、人生をやり直そうとしたが、Yからこれを告げられたAは、激昂してYを職場にも行かせず、ほとんど監禁同然の状態にして暴言や虐待を続けた。監禁と暴言・虐待が始まってから約10日後の夜、また暴言を吐き続けながら襲いかかるAともみ合いになったYは、将来への絶望と過去への憤激からついに殺意を抱き、Aを絞殺した。

当時、刑法第200条が「自己又は配偶者ノ直系尊属ヲ殺シタル者ハ死刑又は無期懲役ニ処ス」と規定していたため、実父を絞殺したYは、この規定に基づいて起訴され、下級審では法定減軽・酌量減軽を加えても3年の実刑判決が下された。

設問

裁判では、刑法第200条が憲法違反ではないかが主要な争点となった。この点について、判例（最高裁判所昭和48年4月4日大法廷判決・刑集27巻3号265頁）の多数意見・少数意見を踏まえながら、あなた自身の見解を述べなさい。